

島根県松江市古志原には、かつて歩兵第 63 連隊の兵営があり、その跡地は現在、松江工業高校となっている。

歩兵第 63 連隊は、日露戦争の最中である、明治 38 年（1905）7 月 12 日に編成が下令され、8 月 8 日、軍旗が親授された。同月 22 日に大連に上陸し、第 4 軍の予備隊となる。終戦後は明治 40 年（1907）9 月まで大陸の警備にあたり、帰国後は大阪の仮兵舎に、翌明治 41 年（1908）11 月、松江の新兵舎に入った。

大正 4 年（1915）と 14 年（1925）にそれぞれ 2 年間の満州駐劄を行っている。

満州事変勃発により、連隊は昭和 6 年（1931）12 月、大連上陸を皮きりに各種作戦に従事する。

昭和 9 年（1934）3 月、土竜山事件により連隊長以下 18 名が戦死、この匪賊を討伐するも、連隊にも多くの犠牲者が出る。事件後の 5 月には松江に帰還する。

日中戦争が勃発するや、8 月に大陸に渡り、各地を転戦、大きな被害を受けるも、昭和 14 年（1939）10 月、2 年ぶりに凱旋帰国する。

昭和 15 年（1940）8 月、満州移駐を命じられ、以後 4 年間、満州の警備に当たるが、昭和 19 年（1944）7 月南方出動となり台湾を経て、ルソン島に向かい、終戦まで同島の守備に就く。

昭和 20 年（1945）9 月 12 日、軍旗を奉焼する時の残存将兵は 200 名余であった。

（わが聯隊、ノーベル書房 より抜粋）

歩兵第 63 連隊

（通称号：鉄 5 4 4 7 部隊）

編成地	編成時期	終戦時の上級部隊	終戦時の所在地
島根県松江	明治 38 年（1905）	第 10 師団	ルソン島北部（フィリピン）

明治 38 年（1905）7 月、広島第 16 師団歩兵第 32 旅団隷下に編成。

翌月、日露戦争に出動。

明治 41 年（1908）11 月、第 17 師団に移り島根県の松江に転営。

大正 14 年（1925）5 月、第 10 師団隷下に編入。

満洲事変では松花江作戦、馬占山軍討伐などに参加。

第 3 大隊は熱河作戦にも参加している。

日中戦争では子牙河河畔の戦闘、平原城の攻略、黄河渡河作戦、漢口作戦などに参加。

昭和 13 年（1938）3 月の台児荘での戦いでは、十数倍の中国軍を相手に死闘を演じた。

昭和 15 年（1940）8 月から満洲の興山鎮に移駐して同地区の警備に当たる。

昭和 19 年（1944）、台湾に進出。

鳳山・苗栗・新竹などで台湾防衛に当たる。

昭和 19 年 12 月、フィリピンのルソン島へ進出。

第 3 大隊乗船の乾瑞丸は、ルソン島リングエン湾北部のサンフェルナンド港入港直前に、敵潜水艦の魚雷攻撃により轟沈。

他の部隊と共に第 3 大隊 606 名中、290 名が戦死した。

昭和 20 年（1945）1 月、米軍上陸。

ルソン島北部・バレテ峠での激戦で奮闘したが、6 月 14 日をもって実質上の全滅状態となる。

生存者は約 50 日間密林をさまよい歩き、8 月 5 日、ピナパカンに到着するが、その時の兵力はわずかに 150 名だった。